



わかみどり



<http://hirabayashi-e.murakami.ed.jp>

TOKYO2020

新型コロナウイルス感染に対する特別警報が発令され、本日13日までとなっています。感染拡大の第4波がここまで拡大するとは予想できませんでした。子どもたちに感染が広がらず、一安心とあったところですが、今後も感染予防を徹底し、教育活動を行っていきます。年度当初の学校の行事予定が中止になったり、延期や変更になったりすることをどうかご理解頂きたいと思います。第一に考えることは子どもたちの安全です。

さて、夏休みから半月以上が過ぎました。夏休みと同時に始まった東京オリンピック2020、そして先日終了した東京パラリンピックでは、私たちに大きな感動と勇気を与えてもらいました。競技に集中する選手たちの真剣な表情や姿は、観ていて胸が熱くなり、無意識に声が出たり、体に力が入ったりしました。

とりわけ私が感動したのは、新競技であるスケートボード女子パーク種目の出来事でした。日本の最終滑走者は岡本碧優選手でした。その時点で四十住さくら選手が1位、開心那選手が2位という状況で、岡本選手は無難に滑れば銀メダルは確実な状況でしたが、敢えて難しい技に挑戦しました。結果はご存じのとおり、転倒してしまいました。敢えて挑戦する姿にも感動を覚えましたが、その後の出来事に驚きました。失意の中、パークを登ると競技を終えていた他の選手たちが、岡本選手に駆け寄り彼女を取り囲み果敢な挑戦を讃えていました。他国の選手は肩車までしていました。そこには国や年齢などの垣根はありません。お互いの存在を認め合い、相手をリスペクト(尊敬)するといった姿が垣間見られました。言い方は適切ではないかも知れないが、国を背負って戦うといった重苦しいものではなく、「国も人種も年齢も関係ない。みんなで楽しもうよ。」といった爽やかさがありました。



本来、オリンピックとはこのようなものではなかったのでしょうか。世界中から競技者が一堂に会し、競技で交流しながら、違いを認め合い、互いの文化に対する理解を深め、平和な世界を創造する。お互いの人権を尊重し、多様性を認め合い、共に生きていこうとする祭典のはずです。

当校では、人権教育を重視しています。お互いの存在を認め、尊重し合い、手を取り合って問題を解決していこうとする子どもたちを目指しています。折を見て、このオリンピック、パラリンピックの意義と人権尊重について話をしたいと考えています。

校長 高橋 明